

日本の製薬産業を取り巻く環境は激変し、生き残りをかけた業界再編、グローバル化が待ったなしの状況を迎えている。昨年、海外バイオ企業などの大型買収劇が相次ぎ、国内各社は将来の成長を確保しようと必死の動きを見せた。一方、特定の疾患領域に事業を集中化するスペシャリティー化やジェネリック医薬品事業への参入など、独自の動きも見られ始め、各社とも位置づけを明確化する必要性に迫られているのは間違いない。まだ再編の動きは終わったわけではなく、今後さらに業界地図が塗り替えられる可能性が高い。

国内大手の大型買収劇相次ぐ

2005～07年にかけては、国内製薬企業同士の合併が進んだが、昨年にかけて大手企業を中心に海外バイオ企業の買収劇が相次ぎ、バイオ医薬品に将来の成長を求める動きが鮮明になった。

主な動きを見ると、07年11月にアステラス製薬が米アジェンシスを、12月にはエーザイが米MG Iファーマを買収した。

さらに国内最大手の武田薬品も2月に米アムジェン日本法人、4月に米ミレニアムの買収に踏み出し、9月には準大手の塩野義製薬が米サイエルの買収に動いた。

一方、第一三共はインド後発薬大手のランバクシーを買収し、新薬と後発薬、先進国と

新興国という複眼経営を打ち出すなど、バイオ医薬品を強化しつつも、他社とは一線を画す動きに出た。

これらの動きで注目したいのは、各社が買収に投じた巨額な研究開発費だ。武田薬品がミレニアムを買収した約8900億円を筆頭に、エーザイが約4300億円、第一三共が約4000億円などと、いずれも過去に例を見ない投資である。

これだけの投資を行うのも、将来の成長を見込める自社開発パイプラインを充実させるため、もはや製薬企業がビジネスモデルとしてきたブロックバスター頼みは終わりを告

製薬産業編

医薬品流通業界は、2008年も激しい動きだった。医療用医薬品は、ほぼ全て卸が流通を担っている。昨年、卸が中心となって注力したのが“流通改善”である。厚生労働省に設置された医療用医薬品の流通改善に関する懇談会（流改懇）が緊急提言を出したことを受けて、製薬企業と卸（流通の川上）、医療機関・調剤薬局と卸（川下）の両局面で、不適切な商慣行を改善しようと取り組んだ。

“未妥結・仮納入”問題にメス

医薬品流通では、納入価格を決めないまま医薬品を医療機関・調剤薬局に入荷し続けるという、常識ではあり得ない商慣習が存在し、これを未妥結・仮納入と称している。また、医薬品には銘柄別に薬価が定められているが、納入する医薬品全て（または一部）を一括して価格を決める総価取引も普通に行われてきた。この2つは、薬価調査による銘柄別の実勢価格把握を難しくしている大きな問題だ。

改善に取り組んだ結果はどうだったのか。長期未妥結と位置づけられた6カ月を経過した9月末時点で、価格が妥結したのは70.9%

だった。調査時期は異なるが前回の薬価改定時06年10月が54.2%だったことに比べれば、改善したと「一定の評価」が得られた。総価取引も、単品単価契約が増加し全品総価契約が減少した。「一定の」というのは、7割妥結は、依然3割は未妥結であることを意味するためだ。今後も改善に向けた取り組みが強く求められていることに変わりはない。

業界では、トップと2位の卸が今年4月に経営統合することを発表し、4兆円卸の誕生と話題になったほか、主要卸がぞくぞくとホ

医薬品流通編

げ、未だ満たされていない疾患領域を狙うアンメットニーズ、バイオ医薬品の時代が到来したと断言していいだろう。

その結果として、これまで過去最高の好業績を謳歌してきた大手各社は、2009年3月期中間決算では軒並み大幅減益に転じるなど、正念場を迎えている。準大手各社も、重い負担ながら研究開発投資を成長のカギと位置づけている点では、大手と状況は同じである。

国内製薬各社は、将来の成長の糧を海外に求め、社運をかけた投資で一気に基盤を構築しようと走り出した。医療費抑制政策で国内市場が低迷していることを考えれば、海外に収益を求めようとする動きは当然とも言える。

残されているのは、主に国内市場で収益を上げる中堅企業の明確な方向性だ。今後もある程度の規模で再編劇が展開されると予想されるが、特定の疾患領域に強いスペシャリティー化、ジェネリック医薬品への参入など、今年から来年には、国内製薬各社の位置づけがより明確になってくると見られる。しばらくは、業界の動向から目が離せない状況が続くそうだ。

業界の最新事情



IFPWダブリン総会では、国際的な医薬品流通課題が話し合われた

ールディングス化を予定するなど、まだまだ再編の動きを予感させる。

国際的には、2年に1回開催されている国際医薬品卸連盟（IFPW）の総会が9月、アイルランドの首都ダブリンで行われた。

世界では英国の特徴的な直販流通モデル、日本市場の特殊性とニセ薬が流通していない高い信頼性、新興国市場の急成長、後発バイオ薬の動向、薬剤師の役割を含めた安全・安心なサプライチェーンの構築など、種々の課題について積極的なディスカッションが繰り返された。

Good Chemistry for Tomorrow 三菱ケミカルホールディングスグループ



いのちの未来のために。

医薬品の創製を通じて、
世界の人々の健康に貢献します。

私たちは、未来の医療に貢献する新薬の研究開発に
まっすぐ取り組むとともに、安全・安心な医薬品の提供を通じ、
ひとりひとりの健康な未来をつくれます。

田辺三菱製薬は、これからも挑戦を続けます。



田辺三菱製薬

www.mt-pharma.co.jp